

公共空間の整備を目的とする「おしゃピク」の活用可能性

1230490 中尾優里

指導教員 土屋 哲

研究背景

「おしゃれなピクニック」の意である「おしゃピク」はコロナ禍を通して流行し、現在若者の一部では恒例化している。趣味や娯楽を従来のように楽しむことが困難なコロナ禍において、不特定多数との接触を避けながら好きな場所で「おしゃピク」を楽しんだ若者は多く、私もその一人である。「おしゃピク」の様子を SNS などで情報発信することによって、そこに映る背景を PR することにもなるため、自治体側にとっては、空間整備の優先度など、「おしゃピク」を公共政策に活用できる可能性がある。

研究目的

本研究は、写真を伴う SNS が若者に浸透していることを前提として、そうしたメディアにおいて背景が映り込んだ写真が若者に好まれ、その結果、自治体が「おしゃピク」を政策に活用できる可能性を検討することを目的とした。

研究方法

アンケートにより「おしゃピク」の実態調査を行い、「おしゃピク」経験の有無や「おしゃピク」に行きたくなる条件を尋ねるとともに、好まれる空間を知るために2枚の写真を提示し、良いと思う方を選んでもらう。この回答を用いて、一対比較型コンジョイント分析により、写真に映る背景の価値を定量的に明らかにする。

分析結果

コンジョイント分析の属性として設定した食べ物、果物、飲み物、花、小物、背景について、それぞれの効用値を明らかにした。その結果、従来のピクニックには見られなかった花や小物などの装飾の有無がおしゃピク全体の満足度に大きく影響することが明らかとなった。中でも、背景のない写真を基準としたときに、背景のある写真の部分効用が有意に正の値となったため、背景が映り込む写真が好まれることが判った。

考察・結論

アンケート調査から、おしゃピクへの認知や体験の有無、その体験内容、おしゃピクに対する意向など、おしゃピクの実態を明らかにした。また、コンジョイント分析によって、おしゃピクを行う際に好まれる条件を明らかにすることができた。特に、背景が映り込む写真の方がそうでない写真よりも好まれることが明らかとなったため、自治体にとって、「おしゃピク」を公共政策に活用する意義が見いだせたと結論づけることができる。